

第1回 食の新潟国際賞受賞者  
(2010年10月29日)



**本賞** モンティ・パトリック・ジョーンズ氏  
(アフリカ農業研究フォーラム 事務局長)  
アフリカ地域に適応するネリカ米を開発。飢餓と貧困に挑む。

**佐野藤三郎特別賞** 袁 隆平氏  
(中国国家雑交水稻作業 技術センター 主任)  
「ハイブリッド米の父」として尊敬を集める。新たな食料増産計画を主導。

**21世紀希望賞** 藤森 文啓氏  
(東京家政大学家政学部環境教育学科 准教授)  
キノコ遺伝子のデータベースを構築。食料・健康の課題に大きな可能性。

第2回 食の新潟国際賞受賞者  
(2012年10月15日)



**本賞** ジョゼット・シーラン氏  
(世界経済フォーラム副議長・国連 WFP 前事務局長)  
5年間 WFP の事務局長を務め、在任中、職員とともに飢餓撲滅のために75ヶ国・10億5百万人の人々の食糧援助を行い、人道的食糧支援の必要性を世界に認知させた。

**佐野藤三郎特別賞** 梅林 正直氏  
(三重大学名誉教授)  
ケン栽培で名高いタイ北部山岳地帯「黄金の三角地帯」において、個人で果樹植樹ボランティア活動を行い、献身的に農業国際協力に取り組み、この地域住民の自立を支援し、ケン栽培からの脱却の推進と持続的な農業による地域モデルの構築を行った。また世界的には麻薬の生産を減らしたとして注目される。

**21世紀希望賞** シンメカ・C・イケグオヌ氏  
(スモールホルダーズ財団 事務局長)  
小規模農民の為の地域 FM 放送局を開局し、ラジオを通じてナイジェリアの25万人の農民向けに環境保護や持続可能な農業、マーケット情報などを提供するとともに「スモールホルダーズ財団」を設立し、小規模農民の製品の生産性と生活向上と貧困者の減少にも寄与した。

第3回 食の新潟国際賞受賞者  
(2014年10月29日)



**本賞** 坪井 達史氏  
(ウガンダ国立作物資源調査研究所 JICA 稲作上級技術アドバイザー)  
30年間に渡って開発途上国の稲作技術の指導に携わり、アフリカにおける稲作(ネリカ米)の世界的な第一人者として技術開発と試験研究や普及を実践した。

**佐野藤三郎特別賞** C.L. ラクシュミパティ・ゴウダ氏  
(国際半乾燥熱帯作物研究所 (ICRISAT) 副所長)  
ヒヨコマメの改良品種を開発。高収穫品種が開発され、多くの農家の収入向上や国家のGDPに貢献。

**21世紀希望賞** 中井 博之氏  
(新潟大学大学院 自然科学研究科 助教)  
人の健康保持増進に有益な機能性オリゴ糖の低コスト汎用製造技術の開発に成功。

第4回 食の新潟国際賞受賞者  
(2016年11月9日)



**本賞** 岩永 勝氏  
(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 理事長)  
生物資源の保存活用研究で多大な業績を上げ、海外国際農業機関で30年近く活躍し、国際トウモロコシ・コムギ改良センター (CIMMYT・メキシコ) 所長としての実績も国際的に高い評価を受けている。

**佐野藤三郎特別賞** 増本 隆夫氏  
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門 地域資源工学研究領域 領域長)  
低平地帯の排水改良、排水問題を研究し、排水施設の最適規模研究などにより洪水防止機能評価法の開発に高度な研究業績を残した。

**佐野藤三郎特別賞** マーシー・ニコル・ワイルダー氏  
(国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター 水産領域 主任研究員)  
稚エビの培養方法で多大な成果を上げ、屋内型エビ生産システムの開発と普及による安全安心な養殖を実現した。

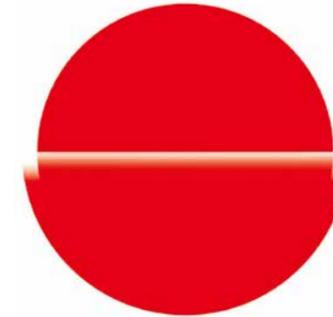
**21世紀希望賞** 宇賀 優作氏  
(国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター 基盤研究領域 育種素材開発ユニット 上級研究員)  
イネの根の構造と機能に関する遺伝育種学的研究に多くの成果をあげ、栽培稲の耐干性の向上に大きく貢献している。

THE SEARCH FOR FOOD INNOVATORS CREATING A BETTER LIFE

佐野藤三郎記念

食の新潟国際賞

第5回 受賞候補者推薦要項



Niigata Award



食の増産と改善に成功したモデル都市 新潟。  
その新潟が世界の食に貢献し、実践する人、地域活動を表彰します。

新潟の田園風景



Niigata Award

公益財団法人 食の新潟国際賞財団事務局

〒951-8131 新潟県新潟市中央区白山浦1丁目425番地9 新潟市役所白山浦庁舎1号棟4F  
TEL 025-201-8901 FAX 025-201-8902  
URL <http://www.niigata-award.jp> E-mail [info@niigata-award.jp](mailto:info@niigata-award.jp)

公益財団法人 食の新潟国際賞財団

<http://www.niigata-award.jp>

## 創設趣旨

新潟は厳しい農業環境の中で食の増産と改善に立ち向かい、日本有数の食と農のモデル都市です。「食の新潟国際賞」は食の分野で世界に貢献し、実践している個人、団体、地域に光をあて表彰することにより、世界の食の問題の解決に寄与することを願って日本の地方都市新潟の産官学民の有志が協力して創設した食分野において日本唯一の国際賞です。

## 「新潟」について

新潟市は、古くから農業や食品産業が盛んで、米を中心に日本の食料生産拠点都市であり、食品の製造、流通、食文化、食品研究、食育等、食分野が集積している田園都市です。

## 「佐野藤三郎」について

かつて新潟市の農業は低湿地帯での腰までつかる泥田の中での厳しい農作業を強いられ常に水と土との闘いの歴史でした。

新潟市にある亀田郷土地改良区 理事長 佐野藤三郎(1923~1994)氏はこの環境改善に挑戦し、泥田を日本一の米を生産する美田に変え、食糧生産基盤を確立するとともに都市と農村の融合などの地域づくりにも貢献しました。

また、その経験を基に、中国黒龍江省「三江平原」の食糧増産の基盤作りに情熱をかけた、国際協力の先人でもあります。

今日の「食の新潟」を作り上げた多くの先人を代表する人として、その偉業を称え、第2の佐野藤三郎の誕生を期待し「佐野藤三郎」氏の名前を冠しました。

## 推薦要項

## 1. 選考基準

- (1) 世界的、地域的、個別的な取り組みや活動であり、斬新で独創性のある業績であるもの。
- (2) 学術的価値そのものを賞賛する賞でなく、新たな発見や開発などの活動が長期で持続型の取り組みであり、人々の生活の向上に寄与し、世界へ強い影響力があるもの。
- (3) 実績・知名度が低くとも将来性が期待できるもの。

## 2. 食の新潟国際賞 各賞（概要）

(1) **大賞**（グランプリ）原則1件 賞状、記念工芸品、副賞1,000万円

（受賞者が複数にわたる場合は副賞を分配します）

・対象分野

①生産と供給 ②食と健康 ③食と教育での研究、活動

・主な事例

- ①食品加工〈食品加工、発明・考案・食料の保存・加工技術〉
- ②食料増産〈新しい育種技術・栽培技術、土地改良、灌漑、治水〉
- ③流通システム〈輸送システムの開発、食料の流通〉
- ④食品の安全と食の向上〈栄養・食品関連病気などの克服〉
- ⑤食品機能による健康増進〈食品の健康機能、病気予防の疫学調査〉
- ⑥食品ロス・食料廃棄問題の対策・活動〈もったいない精神・市民運動〉
- ⑦食・農教育〈食や農業の教育モデル、食育活動・食文化・伝統食の普及〉
- ⑧食分野での国際協力・支援〈NGOによる諸活動〉
- ⑨持続的な食料の保全と確保〈養殖技術・自然・環境保護・水産資源保護〉

(2) **佐野藤三郎特別賞** 原則1件 賞状、記念工芸品、副賞200万円

・対象分野

- ①世界の食料増産・安定供給の為に生産・栽培技術の開発や生産基盤の確立に寄与している研究や活動。
- ②世界各国・地域で持続可能な農業を中心とする自立的な地域モデルとなる研究や活動。
- ③食分野における国際協力や支援活動。

## 推薦要項

(3) **21世紀希望賞** 原則2件以内 賞状、記念工芸品、副賞100万円

・対象分野

## ①(1)大賞と同じ。

但し、将来の世界貢献への可能性と実現性をめざした個人や企業及び団体との共同研究、共同開発、実用化試験、実践活動などであり、現時点で十分な成果が得られなくても、今後の発展が十分に期待できるものも対象にします。

## ②45歳以下の研究者や活動家を対象。

※尚、各賞とも選考の結果、該当者なしの場合もあります。



## 正賞「シュプリングエン」

正賞として授与されるモニュメントは、世界的な金属工芸作家であり、文化庁長官（前東京藝術大学学長）宮田亮平氏によって制作された「シュプリングエン」です（第1回～第4回）。テーマは「跳躍。そして希望」。未来に向かって2頭のイルカが力強く宙を舞います。

## 3. 受賞者資格

- (1) 国籍、性別、信条は問いません。現存者に限ります。
- (2) 各国政府機関に所属している者及びグループが、機関本来の任務遂行の一環として達成した業績は、原則として対象外とします。但し、業績や貢献が機関の基本的任務を越えて顕著である場合は対象とする事ができます。
- (3) 過去に顕著な国際賞（ノーベル賞、世界食糧賞、日本賞、京都賞など）を受賞していない個人、団体を対象とします。

## 4. 受賞者選考と決定

「第5回食の新潟国際賞選考委員会」（委員長 唐木 英明）により受賞候補者を選定し当財団理事会で受賞者を決定します。

## 5. 表彰式

2018年11月に日本国新潟市において開催いたします。

## 6. 推薦応募方法

- (1) **推薦応募期間** 2017年9月1日(金)～2017年12月25日(月)（受付最終日到着分有効）
- (2) **推薦応募数** 各賞3人まで推薦できます。団体は1人として数えます。
- (3) **推薦書** 財団の推薦書フォームを使用（英語または日本語）
- (4) **ダブル推薦** 同一候補者を複数の賞に同時に推薦できます。
- (5) **再推薦** 過去に応募し選外となった推薦の再推薦も受け付けます。
- (6) **自薦** 推薦者の自薦も可能です。
- (7) **秘密保持** ①推薦内容の秘密は守ります。  
②21世紀希望賞については、研究の実用化や実践につなげるため、企業や団体との共同研究、実用化支援の目的で、推薦情報を開示します。
- (8) **推薦書の返却** 原則として返却致しません。
- (9) **推薦書の送付** **推薦書を電子様式または郵送で送付下さい。添付資料があればCD、DVD等の電子媒体の使用も可能です。**
- (10) **送付先** メールアドレス：info@niigata-award.jp  
郵送先：新潟市中央区白山浦1丁目425番地9  
新潟市役所白山浦庁舎1号棟4階 公益財団法人 食の新潟国際賞財団事務局
- (11) **ホームページ** <http://www.niigata-award.jp>  
（推薦フォームはホームページからダウンロードできます）
- (12) **その他** 選考審査過程において、追加資料の提出をお願いする事があります。